

編集後記

■編集委員

委員長

藤 田 郁 代

副委員長

立 石 雅 子

阿 部 晶 子

今 井 智 子

石 坂 郁 代

内 田 信 也

宇 野 彰 準

勝 木 紀 子

倉 内 紀 子

倉 智 雅 子

佐 藤 睦 子

椎 名 英 貴

城 間 将 江

鈴 木 恵 子

中 村 光 一

長谷川 賢 一

春 原 則 子

深 浦 順 一

藤 原 百 合

水 田 秀 子

矢 守 麻 奈

■英文要旨の校閲

Gordon BATESON

勝 木 準

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)に関する多角的な研究が世界各地の機関で精力的に行われているが、米国のASHAのwebsiteには言語聴覚療法に関連するCOVID-19研究の情報が更新を繰り返しながら掲載されている。地球環境の悪化とグローバル化が進行する現代社会で生きている私たちは感染症の脅威に常にさらされており、COVID-19が終息した後も感染症との闘いは続くであろう。したがって、COVID-19が言語聴覚障害およびこの障害を持つ人の生活にどのような影響を及ぼすかを明らかにしておくことは、次の感染症対策のためにも重要である。

本誌はこれまでCOVID-19患者の言語聴覚療法に関する論文を数編掲載してきたが、その1編が今号の「新型コロナウイルス感染患者に対する言語聴覚療法の経験」(兼岡麻子氏)である。医学では、COVID-19患者に発症する脳血管疾患が注目されており、これに関連した言語聴覚障害の特性や評価・訓練・支援に関する研究の報告も望まれる。

今号の総説では、本誌の現在までの歩みと論文の動向を解説させていただいた。掲載論文の分析により本誌のいくつかの特徴が浮き彫りとなったが、そのひとつは言語聴覚療法の根拠を探究し、臨床の質の向上に寄与する論文が多いことである。本誌は分野固有の学術的観点から言語聴覚障害の臨床と研究の発展に寄与していることがわかる。原著論文では、佐藤朋子氏が精神的緊張によって発話速度が上昇する現象を取り上げ、精神的緊張と速度感には異なる因子が関与する可能性を指摘しており、興味深い。

今号には、終末期言語聴覚療法に言及した2つの論文が掲載されている。そのひとつは、常峰かな氏による症例報告であり、病初期に孤発性Creutzfeldt-Jakob diseaseの臨床診断が行われ、病名告知を受けた事例の終末に至るまでの経過がQOLの視点から詳細に記述されている。もうひとつは、西片裕氏の末期肺癌患者に対するターミナルケア・グリーフケアの報告である。いずれも終末期言語聴覚療法のあり方を考えるうえで示唆の多い貴重な報告といえる。調査報告では、氏田直子氏が聴覚障害領域の卒前・卒後教育の問題点を多角的に検討し、今後、解決すべき課題を具体的に示している。

(藤田郁代)

言語聴覚研究 (第18巻 第2号) 2021年6月15日発行[年4回(3, 6, 9, 12月)15日発行]

Japanese Journal of Speech, Language, and Hearing Research

1部定価: 2,200円(本体2,000円+税10%)

2021年年間購読料: 8,250円(4冊, 税込, 送料発売会社負担)

編集・発行: 一般社団法人日本言語聴覚士協会(会長: 深浦順一)

〒162-0814 東京都新宿区新小川町 6-29 アクロポリス東京 9階

(☎03-6280-7628 FAX 03-6280-7629) <http://www.jaslht.or.jp/>

Published by Japanese Association of Speech-Language-Hearing Therapists (JAS), Acropolis Tokyo 9F, 6-29 Shinogawamachi, Shinjuku-ku, Tokyo, 162-0814, Japan

©2021, Printed in Japan

制作・発売: (株)医学書院(代表: 金原 俊) <http://www.igaku-shoin.co.jp/>

〒113-8719 東京都文京区本郷 1-28-23(振替口座 00170-9-96693 番)

販売部直通 ☎03-3817-5659・5660(FAX 03-3815-7804)

印刷所 (株)アイワード ☎011-241-9341(FAX 011-207-6178)

広告申込所 (株)文京メディカル ☎03-3817-8036(FAX 03-3817-8044)